平成23年度青少年教育施設のあり方を考える懇話会における総合評価シート

平成23年9月16日

施設名	幡多青少年の家	所管課室	生涯学習課

1．施設の概要

施設所在地	幡多郡黒潮町上川口1166
業務内容	・施設の管理運営に関すること ・施設の利用の許可に関すること ・設備の維持管理に関すること ・主催事業及び受入事業の企画運営に関すること ＜平成22年度主催事業＞ ・わくわくチャレンジ ・泊ってドキドキ！遊んでワクワク！（夏編・秋編） ・シーカヤックで冒険！ ・ちびっ子忍者！－落城合戦－ ・心のふれあい－シルバー編－ ・メリークリスマス ・小学生バレーボール幡多大会 ・中学生リーダー研修
施設内容	幡多青少年の家においては、本県の基本的教育課題である「心豊かで自立できる人づくり」の理念を達成するため、当所の目標を掲げ、また随時運営方針を見直しながら、事業の2つの柱である受入事業及び主催事業を実施している。 構造：本館　鉄筋コンクリート 2階建　延べ2,655.55㎡ 体育館　鉄筋コンクリート2階建　延べ1,192.26㎡ 施設概要： 本館宿泊棟　25室（定員200名） 食堂　（定員200名） 大研修室（映写室）（定員200名） 中研修室（定員50名×2室） 小研修室（定員20名） 和室（8畳・6畳） 茶室 野外炊飯棟　115.52㎡
職員体制	職員：所長 1名　、チーフ1名、主任1名、主任社会教育主事1名、 社会教育主事1名、非常勤職員2名、臨時的任用職員3名 合計：10名 現業部門は大方青少年育成会に委託(9名)

2．利用実績

（1）宿泊者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	12,085	12,217	10,697	10,609	9,842	11,090

（2）利用団体数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
団体数	694	617	520	581	565	595

（3）利用者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	33,382	32,401	28,665	27,052	27,621	29,824

３．業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。 〇豊かな自然環境（山、川、海）に恵まれた施設の立地条件を最大限に活かしたプログラムや、小・中・高等学校の発達段階を考慮した指導プログラムを作成し、幅広い利用者ニーズに対応できるようにしている。 〇各プログラムの狙いや準備・実行段階での留意点などを整理したマニュアルを作成して、効果的な研修が行えるよう配慮するとともに、研修計画を作成する際には、指導者（学校教諭等）に主体的に関わってもらい、適切な研修効果を得るための工夫を行っている。 〇「ハイキングウォーキング」「スナッグゴルフ」「シーカヤックで冒険」の3つの体験型プログラムを新規開発し、主催事業や受入事業のプログラムとして定着しつつある。 〇黒潮町内の小学校にスナッグゴルフの出張事業を実施し、施設の有するノウハウを幅広く地域に還元している。 〇地元の3小学校と連携して、宿泊中の子どもたちの避難誘導訓練を取り入れた消防合同避難訓練を行った。（輪番制により平成22年度は上川口小学校） 〇施設のホームページには、年間の主催事業計画や受入事業で提供できるプログラム内容を画像入りで詳しく掲載するとともに、自然あふれる幡多地域の季節の画像を掲載するなど、施設の魅力を幅広く情報発信している。
②利用者へのサービス向上のための改善策	利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。 〇利用者（団体）の研修目的を明確化するため、事前研修相談を十分に行ったうえで、研修の詳細を共同で計画し、目標達成に向けた取組みを行っている。 〇中1学級づくり合宿の事前研修の位置づけとして、幡多地域内の小学校の連合研修を実施している。研修にあたっては、施設側から学校側に対して、事業の必要性や効果を積極的にPRし、研修実施後も事業効果が継続されるよう連携に努めている。 〇中１学級づくり合宿について、教師や生徒を対象に合宿直後に、また、教師向けに２月後にアンケートを行い、利用者のニーズ把握や事業効果の検証を行っている。 〇主催事業のボランティア参加者（幡多高等看護学校や黒潮看護専門学校の生徒、臨時教員など）に対して、事前の事業説明を徹底し、利用者に安心感を与えている。 〇施設を利用した各種学校の児童生徒の感想や礼状に対しては、必ず返信を行うとともに、その内容を以後の事業内容や施設運営に反映させている。

③施設の運営について	施設の運営について、以下の点で工夫が見られた。 〇幡多地域内の小中学校等を日頃から積極的に訪問して、施設のPRや事業実施後の情報交換を行い、その結果を新たなプログラム開発等に活かしている。 〇職員の資質向上を図るため、担当業務毎の研修参加はもとより、業務の内容に依らず全職員が備えるべき能力開発を目的とした外部講師を招聘した研修会を例年実施している。（平成22年度は「発達障害のある子供への対応について」） 〇幡多青少年の家と（財）大方青少年育成会の全職員が日頃から情報共有に努めており、主催事業の実施内容の検討をはじめ、当日の受入対応、事業実施後の振り返りに至るまで共同した取り組みを行っている。 〇野外体験活動中の突発的な事故や自然災害に対応できる危機管理マニュアルの作成を行い、状況に応じて適切な対応が出来るように職員間で情報共有を行っている。 〇各主催事業の実施後、反省会を行いその記録を書面に残すとともに、全主催事業終了後は評価会を行い、次年度以降の計画に反映している。 〇国の経済対策による臨時交付金を活用し、ラッピングマシン（芝刈り機の刃の研磨）、小型物置、ソフト平均台を購入した。
④利用実績	〇平成21年度と比較して、宿泊者数は767名の減少（▲8.4%）、利用団体数は16団体の減少（▲2.7%）しているが、利用者数は569名（+2.1%）増加している。
⑤収支の状況	〇宿泊者数が減少したことにより、平成21年度と比較して、使用料収入は212千円の減収となった。
総合評価 A	〇施設長を中心として、幡多地域内の小中学校等との連携を密にして、施設のPRや事業実施後の情報交換に努めている。また、その結果を新たなプログラム開発（平成22年度は3プログラム）等に活かしている。 〇中1学級づくり合宿と連動性のある事前研修として、施設自らが企画提案した小学校の連合研修を実施している。また、研修実施後は、事業効果が継続されるように学校との連携に努めている。 〇職員の資質向上を図るため、外部研修への職員派遣はもとより、外部講師を招聘した研修会を開催するなど、絶えず新しい視点で、施設のレベルアップに取り組んでいる。 〇幡多青少年の家と（財）大方青少年育成会の全職員で、主催事業ごとに実施案の検討、詳細案の事前確認、情報共有を行うとともに、共同して事業等に取り組んでいる。 〇今後、更なる向上を目指して、以下の取り組みを期待する。 ①事業実施後のフォローアップに努め、 新たな事業展開に活かすこと。 ②地域の環境学習団体等と連携した宿泊研修の実施など、幡多地域の豊かな自然を活かした新たな事業展開を行い、全国に情報発信していくこと。